

令和5年度学校評価(重点目標) 松本筑摩高等学校 通信制

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。	2 社会人基礎力(特に挨拶ができる力)を育てる。	3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力の定着・伸長を図る。	4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
全般	キャリア教育の推進	自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導・「総合的な探究の時間」・行事等の学校諸活動の中で、キャリア教育的観点に立った体験活動を体験させることができたか。	B	【成果】マイポートフォリオを改訂し、生徒職員とも最大限に活用できるような様式を一本化した。県による「キャリア・チャレンジ・パスツアー」およびハローワークによる3月の職場見学に参加することができた。卒業生および外部講師による進路講演会、外部講師による面接・履歴書講座、係・職員による面接指導は従来通り実施。「進路だより」で自己の将来像を意識させることに努めた。学校設定科目「就職チャート」は、生徒の就職活動につながっている。 【課題】全生徒が揃ってのホームルームや学年集会を持っていない中で、如何にしてキャリアデザインへの意識づけや行事等の情報を行き渡らせ、行事への参加者を増やすか。また、コミュニケーション力、表現力が十分でない生徒への支援が課題。	通信制のあらゆる活動が、生徒のキャリア形成に関わるものである。これを職員も共通意識とする。 ・地区活動の活性化(コミュニケーション力の育成、仲間との共働)。 ・面接練習の充実(生徒それぞれに応じた練習を工夫)。 ・「就職チャート」の主旨理解の徹底と指導強化。 ・体験活動の充実(午前部・午後部と連携しての行事参加を検討、県やハローワークによる職場見学への参加を継続)。 ・マイポートフォリオの主旨理解と積極的な活用。 ・ホームルーム担任による生徒理解と適切な情報提供。
		学期末、年度末の事後評価に終結するのではなく、教員の指導改善、生徒の学習改善につながる観点別学習状況の評価を意識したレポート添削や教科指導を行うことができたか。	B	【成果】①レポートや学習のしおりに「観点別学習状況の評価について」を記載し生徒に周知を図った。 ②評価方法や留意すべき点を定め、全職員が共通認識を持って教科指導、評価に臨むことができた。 【課題】①レポートや面接がその場限りという姿勢の生徒がまだまだ多く、次の学習に評価を生かすまでには至らなかった。 ②57%の教員が「B」評価であり、半数以上の教員は成果を得るには至らなかった。	①レポートの設問に評価の観点を付記する、面接時に観点を明示する、学習の振り返りを行う機会を設定する等、改善していきたい。 ②通信制の学習システムでは「思考・判断・表現」を評価するための活動は難しい場面もあるが、レポートや面接に多様な活動やポートフォリオを取り入れる等々、工夫していきたい。
学習指導	添削指導及び授業の工夫・改善	添削指導や授業において、個々の生徒の単位修得につながれるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	A	【成果】添削指導では、分かりやすく丁寧なアドバイスに努め、多くの生徒の単位修得につながることができた。スクーリングでは、単なる知識の説明にとどまらず、視覚効果を高めるICT機器の活用や、補助プリントの配布等、分かりやすい面接を工夫した。期末テスト前には「学習相談期間」を設定し、より丁寧なレポート指導を行った。 【課題】一定数、レポート提出やスクーリング出席が満たせず、単位修得に結びつかない生徒が存在する。	引き続き、個々の生徒の詳細な情報共有に努め、より多くの生徒の単位修得につながるような面接指導・レポート添削に尽力する。 ICT機器活用の研修会を随時実施、より多くの教員が適切に活用できるように知識・技能の向上を図る。 「学習相談期間」だけに限らず、年間を通して生徒の個別指導は懇切丁寧に行う。
		計画的な学習を進められるよう、学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	A	【成果】「きずなネット(メール配信)」は毎回のスクーリング後には必ず行い、タイムリーな情報発信に努めた。情報誌「筑摩」を年6回発行し、学校、生徒、保護者等とで情報を共有することができた。各HR担任においても、Google Class Room)によって、HR全体や生徒個人との重要な情報共有を密に行なった。 【課題】ごく少数、「電話」を始めとする情報通信システムでの連絡がつかない生徒が存在する。	「きずなネット」や情報誌「筑摩」はさらに充実したものとなるよう、内容の精選を行う。導入して3年目となるGoogle Class Roomも、HRだけではなく教科・科目で種別別の活用し、随時適切な情報発信に努める。 連絡の取りにくい生徒に対しては、保護者等にも電話連絡を行い、重要情報は確実に伝わるように配慮する。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身につけさせることができたか。(面接授業、行事、学習室の利用方法、バイク・自動車通学など)	B	【成果】5年ほど前と比較し、駐車場や校内でのマナーは格段に改善されてきている。 【課題】駐車許可証を更新しない生徒がいる。また学習室の利用において一部の生徒たちが騒がしく、周囲から苦情が出ることがあった。	駐車許可証については立ち番などの機会をとおして取得を促す。学習室の利用については校内巡視などで慎重に様子をつかみ、都度必要な指導を行うとともに、必要に応じて係での指導を行う。
		互いの人格が尊重された安全で安心な環境づくりが具体的に図られたか。(IDカード、立ち番、校内巡視、SOSの出し方教育など)	B	【成果】IDカードの着用も定着し、大きなトラブルもなく、安全で安心な環境を維持することができた。 【課題】すべての場面において、すべての職員による現在の慎重な生徒観察及びその情報共有を、今後も継続することが最大の課題である。	報告・連絡・相談といった当たり前のことを当たり前におこなうことで、現在の落ち着いた状況を維持するよう努める。
生徒指導	相談支援	命の大切さへの理解を深めさせると同時に、個々の生徒が抱えている課題を共有し、学習活動につながる支援ができたか。	A	【成果】・昨年度の課題であった、SC、医療カウンセリングまでつながる生徒が増えることと、言う点では、毎月のカウンセリング希望者が、確実に増え、SCから、医療カウンセリング、または、医療につながる生徒も出てきている。 ・校内では、特別支援係、関係生徒の担任、学年、係等の連携と情報共有が、より一層深くなった。一人一人の生徒に寄り添い、それにより、生徒の学習意欲向上にも、つながっていると思われる。 【課題】・SCとのカウンセリング希望者が増え、やりくりが難しい場面もあったので、時間数(カウンセリングの午前中後からのやりくりなど)の調整ができた。 ・SCとのカウンセリング希望者が増え、やりくりが難しい場面もあったので、時間数(カウンセリングの午前中後からのやりくりなど)の調整ができた。	・1か月に一度のSCとの関わりのみでは、不十分と感じる生徒への医療へのつながり、その他支援を探りながら、学校、学習に意欲が持てるような働きかけができればと思う。
		個々の進路希望を把握し、本人の希望、適性に沿った指導ができたか。	A	【成果】進路希望調査に基づき担任と連携して、進学・就職とも個々の希望に沿った指導を行うことができた。また、新たに職業適性検査を希望者に実施し、生徒が自分の適性を確認する機会とすることができた。就職の一次合格者は昨年より減ったが、就職支援員のサポートもあり、大部分の生徒が内定を得ることができた。 【課題】面接指導は例年の方法を踏襲し、実施回数や形式を一律で実施したが、生徒によっては成果が現れにくいこともあった。	面接指導について ・フィードバックの方法の改善を図る。 ・生徒の特性に応じた方法で行う可能性について検討したい。 進路について考えさせる機会について ・生徒が最適なタイミングで進路実現に向けての第一歩を踏み出せるよう、進路ガイダンスは進学希望者・就職希望者で実施日をつけて行うこととする。 ・卒業予定者については、就職・進学ともに担任が懇談会時に進路希望の具体化を図る。 ・午前部、午後部の「分野別進路ガイダンス」に通信制から希望者が参加できるように、パート間で連携し体制を整える。 ・県やハローワークによる事業所見学の情報提供を引き続き行い、担任と連携して学年にこだわらず幅広く生徒の参加を促す。
生徒自主活動	生徒自主活動の充実	生徒会行事、地区活動がより充実したものになるよう、生徒の企画・運営を支援することができたか。	A	【成果】①新型コロナウイルス5類移行に伴い、運動会、文化発表会、地区活動等をコロナ禍前の規模に近い内容で実施することができた。 ②本部役員が昨年度より増えたため、前例踏襲ではなく行事の内容を見直し、充実させることができた。 【課題】①行事実施後に「もう少し内容を盛り込んでも良かった」という反省が役員生徒から出たこともあり、役員生徒・顧問ともに、どの程度コロナ禍前の内容に近づけるか手探りであった。 ②役員生徒全員が今年度からの加入であったため以前のような様子かわからず、役員生徒が自主的に動くことは難しかった。	①役員生徒の負担感と行事に参加した生徒の充実感を押し量りながら、コロナ禍前の規模に加え、新たな取り組みもできるように役員生徒を支援していきたい。 ②1・2学年の生徒にも積極的に声をかけ、複数年役員として活動できる生徒を増やしていきたい。そうすることにより役員生徒の気付きや発案も増えると思われるので、課題①の改善につなげていきたい。
		生徒のデータ管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	【成果】・複数によるチェック体制をさらに充実させ、管理規定に従った情報管理・セキュリティ強化を徹底する。 ・各部署や教科で多角的にデータの分析を行い、職員会等で情報を共有する。 【課題】・情報セキュリティ対策の徹底。 ・生徒に係る多く情報を集約するだけでなく、しっかりと分析したものを職員間で共有する必要がある。	
学校運営	円滑な学校運営	校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	A	【成果】・学校安全衛生委員会施設・設備の不備を点検し、迅速に修繕等の改善を図った。 ・学習環境整備事業として学習室のパーテーションを作成し設置した。学習室の使用頻度が格段に上がった。 【課題】・老朽化したトイレの改修が大きな課題。 ・学習室の冷暖房設備の充実。 ・生徒の休める場所、交流できる場所の機能を持った控室が必要。	・老朽化については関係機関に改善を要請していく。 ・生徒とともに取り組むことができる機会も活用し、与えられた環境下で最良の状態に取り戻すよう努力する。 ・学習室の環境については、施設部、教務部が中心となり配置と改善を進めていく。
		本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	A	【成果】・ビジョン委員会を通じて、現状の課題を職員間で共有した。各部署ではその課題について検討し、早期に改善できるものについては後期からの実現で対応することができた。 【課題】・ICT機器を活用した学習環境を通信制としてどう実現していくか。	・引き続き職員の課題意識を丁寧な共有し、見直しや改善につなげていく。 ・通信制高校の全国ネットワーク(全通研、中通研)を活かし情報共有や問題の共有をすすめていく。
開かれた学校づくり	保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	情報誌「筑摩」やホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	A	【成果】・年6回の情報誌「筑摩」と、HP・きずなネット、Google等を活用し、生徒・保護者に随時最新の情報を提供することができた。	・情報誌「筑摩」に掲載する内容については、中学生や地域の方々により多くの情報が提供できるよう、さらなる工夫を考える。
		保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	【成果】・心の健康講座への保護者の参加など、一定の理解を示していただいた一方で、通信制としての地域関係者との連携がうまく推進できていない。 【課題】・学校行事等、コロナ禍以前に戻りつつある中で、再び保護者や地域関係者の皆様の行事や参観への広報が必要。	・保護者の参加を前提とした行事計画の立案をし、情報誌「筑摩」への掲載やきずなネットでの広報を行う。 ・定時制と地域との連携を、通信制でも活用できるのか、各部署での検討(美化活動、くれきの探究など)